

ひまわり



令和2年12月25日(金)

希望は未来を開く



大晦日まであとわずか。新型コロナウイルスに翻弄（ほんろう）された一年間でした。1月の新型感染症の報道では、多くの人は対岸の火事のように受け止めました。2月にはダイヤモンドプリンセス号での集団感染。そして、まさかの学校休業。小学6年生や中学3年生にとっては、卒業を前にしてとてもつらい出来事でした。3月、オリンピックの延期や志村けんさんの死亡が報じられ、不安は高まりました。4月には政府による緊急事態宣言。5月の夏の甲子園中止。6月に入り世界の感染者は1000万人を超え、死者も50万人を超えました。

7月、日本における第2波の始まり。8月には世界の感染者が2000万人を超え。9月に入りワクチンの話題が大きく報じられるようになりました。10月にはヨーロッパでの感染再拡大。11月、日本では第3波が襲来。12月に入っても、その勢いは止まらない状況です。しかし、ワクチン接種が現実的なものとなり、希望の光が見えてきました。この一年間、連日、新型コロナウイルスについての報道がありました。その多くは、良い情報ではありませんでした。多くの人が、気の滅入る思いで報道を受け止めていました。

「希望は人を成功へと導く信仰である。希望がなければ何事も成就するものではない」と語ったのは、視覚・聴覚障がいがありながら、障がい者の教育・福祉に貢献したヘレン・ケラー(アメリカ)です。人は希望があるからこそ、前向きに生きることができるのです。

それでは、未来に希望を見いだすためには、どうすればよいのでしょうか。その答えはいたってシンプルです。良いことも悪いことも素直に受け入れ、目の前で起こっていることに対して、積極的に対応することです。例えば、感染が拡大している時期には、徹底的に外出自粛に努めるといったようなことです。

また、赤根翔道（あかね しょうどう・曹洞宗僧侶）さんは、著書の中で希望について次のように書いています。「希望は笑顔を生み、笑顔はチャンスを生む」希望のあるところには笑顔があり、笑顔は他者にも安らぎや勇気を与え、そこにはチャンスが生まれるのです。逆もしかし、「笑顔は希望を生む」とも言えるのではないのでしょうか。

今年は、人類にとって大きな試練の年でした。新型感染症は、経済など社会生活にも大きな影響をおよぼしました。このような状況の回復には、多くの時間がかかるでしょう。だからこそ、私たちは「いつも笑顔で互いを励まし合い、支え合い、自分たちでチャンスをつくっていく」必要があるのです。笑顔で良い年を迎え、1月7日は元気に登校してください。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

